バラエティ豊かなラインナップ
チョコエッグ
本物のおいしさ
セコイヤチョコレート
フルタ製菓株式会社
〒544-0023　大阪市生野区林寺6-7-22

菓子・食品・パン関連資材専門紙　流通記者会加盟紙

菓業食品新聞

The Journal of confectionery

URL：http://okashi.info　e-mail：okashi@nespe.com

令和2年　4月22日（水曜日）
（毎月12、22日発行）第2229号
昭和41年7月2日第3種郵便物認可

発行所　〒553-0003 大阪市福島区福島 1-2-12-605
TEL 06(6458)2045 FAX06(6458)6520
株式会社 菓業食品新聞社
支社・京都
発行人　狩野　智子　　一カ年　8,400円

第2回 ①

新型コロナウイルス 菓子関連企業 アンケート

1,2,3,7,8面

新型コロナウイルス感染者は全世界で250万人、死者が17万人を越えた。日本でも4月に入り感染者が急激に増え、緊急事態宣言発令の事態となった。

菓子業界での影響は、当初は土産菓子、イベント関連などに限定されていたが、外出自粛、休業要請が出るに及んで、贈答品等も動かなくなり、販売店自体の休業も続き、より深刻な事態となっている。

一方、自家用消費に確実な需要があることが、人々に愛されている菓子産業の強みでもある。

アンケートを読むと、前回より切実さが増し、政府の対応の遅さに悲痛な声も多い。先の展望が見えないことが一番の困難である。回復には時間がかかるだろうし、前と同じには戻らないかもしれない。消費者と業界の関係も変わるだろう。先を見る鋭敏な感性を持ちながら、今を耐え、生き残らなくてはならない。

第2回アンケート（4月12日送付分）の回答を分類し、生の声をお伝えする。次号にも掲載予定。

土産ルート9割減
大手流通菓子好調続く

◎製造卸主体業者

概況＝3月までの二極化傾向がより顕著になっている。主にスーパーを販路とするメーカーは生産が逼迫し、一方で、土産、百貨店・専門店など贈答品を製造しているメーカーは苦境に立たされている。ハロウィンの企画までがなくなったところもあり、長期化を不安視する声が多い。

◎各社の声

・2月106%、3月1～13%、4月も好調に推移している。現在も受注減。受注に関し、テーマパーク向けはハロウィン企画までが全てキャンセルになった。お土産向けは70%減、駄菓子も10%減。輸出向けも、仕向地によっては0となっている。マスクの値上げ（2～15%減、4月に入り30%減。**対策**＝今後、さらに売上が減少すれば、一部休業を考える。金、新型コロナ感染症特別給付による企業の賃金支払い助成金の活用は、今後の状況による。**意見**＝世界に協調して移動制限や外出禁止をしないと、終息しない。自粛要請がダラダラと長期化するのが最悪だ。全国一斉に休業や外出禁止ができるようにすべき。納税者への一律給付による企業の賃金支払い停止や、家賃の支払い停止、借入金の返済停止などで、雇用と倒産からは政府の給付金の活用を検討中。（京都）

施設休業で返品 支援の迅速化を

・売上は2月は15%減、3、4月は50%減。3月東京の食品高級スーパー、郊外・地方の百貨店は前年並みか微減。都市部百貨店は40%減。駅関係は60%。4月は駅関係は臨時休業。臨時休業店舗より商品が戻ってきており、今月20日過ぎより、オンライン販売でセール予定。製造・加工は2分の1に縮小している。直営店を4～5月11日から5月6日まで休業とした。工場も一時稼動停止（4月10日から5月6日）としている。**対策**＝工場内では3密対策（ついたての設置、換気など）を徹底する。新型コロナ感染者には傷病手当を、会社都合で休業する人には休業手当の準備を進めている。融資を少し受けており、政府の給付金も活用予定。（大手）

・2月3%減、3月10%減、4月は前年を上回る予定。デパート、空港の客数減の影響が大きく、羽田空港は売上ゼロの状態。雇用調整助成金を活用予定で、融資も申請する。コロナ対策の特集を店舗に商品が戻ってきても同様。百貨店や店舗も休業に入ったので、開店しなければ戻らない。**対策**＝製造・販売面では土産調整を行っている。労務面では、雇用調整助成金を活用予定。経営面では政府の給付金の活用をたため、長めのGWにすることで乗り切る予定だが、長引くようなら助成金活用等を考える。政策金融公庫に運転資金の融資を申請した。**意見**＝休業した企業への助成を強力にサポートすることで外出自粛の動きは広がると思う。（京都）

・売り上げは月々、日々どんどん落ちている。（2月から4月にかけて）昨対45%以下。商品の注文も同様。百貨店や店舗も休業に入ったので、開店しなければ戻らない。**対策**＝製造・販売面では土産調整を行っている。労務面では、雇用調整助成金を活用予定。経営面では政府の給付金の活用を検討中。（京都）

・2月は2月は15%減、3、4月は50%減。3月東京の食品高級スーパー、郊外・地方の百貨店は前年並みか微減。都市部百貨店は40%減。駅関係は60%。4月は駅関係は臨時休業。臨時休業店舗より商品が戻ってきており、今月20日過ぎより、オンライン販売でセール予定。製造・加工は2分の1に縮小している。直営店を4～5月11日から5月6日まで休業とした。工場も一時稼動停止（4月10日から5月6日）としている。**対策**＝工場内では3密対策（ついたての設置、換気など）を徹底する。新型コロナ感染者には傷病手当を、会社都合で休業する人には休業手当の準備を進めている。融資を少し受けており、政府の給付金も活用予定。（大手）

・2月3%減、3月10%減、4月は前年を上回る予定。デパート、空港の客数減の影響が大きく、羽田空港は売上ゼロの状態。雇用調整助成金を活用予定で、融資も申請する。コロナ対策の特集を店舗に商品が戻ってきても同様。百貨店や店舗も休業に入ったので、開店しなければ戻らない。**対策**＝製造・販売面では土産調整を行っている。労務面では、雇用調整助成金を活用予定。経営面では政府の給付金の活用を検討中。（京都）

・売り上げは月々、日々どんどん落ちている。（2月から4月にかけて）昨対45%以下。商品の注文も同様。百貨店や店舗も休業に入ったので、開店しなければ戻らない。**対策**＝製造・販売面では土産調整を行っている。労務面では、雇用調整助成金を活用予定。経営面では政府の給付金の活用を検討中。（京都）

進物の需要 大幅減
地域限定で配達始める

◎自店舗販売主体業者

概況＝巣ごもり消費が中心になっている。京都のアンケート返答率が高いが、それは同地の状況の厳しさを語っているかもしれない。

◎各社の声

・2、3月は、1月のテレビ出演もあり好調。4月は下降気味。これからさらに厳しくなると予想。進物の需要が極端に減っているが、その分ご自宅用が増えている。行事の中止に伴い、注文のキャンセルが発生している。緊急事態宣言以降、極端に人通りも少なくなり、それに伴い来店客数も減少した。特に週末土日は雨天も重なり、かなり落ち込んだ。売れない分生産調整をしている。**対策**＝この時期を逆に活かし、新商品開発に取り組んでいる。今のところ通常どおりの営業時間。4月7日より限定地域、限定商品で配達を受付。全販売スタッフ（正社員、パート、アルバイト）8名は4月14日から同月30日まで休業。その後は状況で判断。雇用調整助成金を活用したい。**意見**＝このご時世でも、ありがたいことに和菓子の需要はあり、和菓子を通して家庭で心和むひとときを楽しむお手伝いができると思っている。助成金がおりるかどうかが不確定なので、少し心配がある。マスク不足を解消してほしい。（大阪）

（2面に続く）

2面 和菓子甲子園 応募要項
3面 林神社 饅頭祭り斎行
7面 京都 コロナの影響

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。